

《担当者名》教授 / 安彦 善裕 yoshi-ab@ 教授 / 永易 裕樹 nagayasu@ 教授 / 越野 寿 koshino@  
 教授 / 三浦 宏子 hmiura@ 教授 / 長澤 敏行 nagasawa@ 教授 / 會田 英紀 aita@  
 教授 / 照光 真 terumitsu@ 教授 / 高橋 伸彦 ntks@ 教授 / 山田 律子 rich@  
 准教授 / 豊下 祥史 toyosita@ 講師 / 倉重 圭史 kura@ 講師 / 金 尚永 kim@ 講師 / 吉田 光希 denty@  
 客員教授 / 山下 徹郎 客員教授 / 大原 裕介 非常勤講師 / 藤本 篤士

【概要】

超高齢社会における保健・医療・福祉では、専門職業人が協働する多職種連携が必要とされている。この講義では、異なる分野の観点から口腔に対する重要性や知識を学ぶことで、多職種連携に関する知識や取り組みについて理解する。また、口腔医学の観点から、歯科診療上、重要な疾患・病態、診断・治療及び口腔と全身との関わりを理解し、全身の問題に関する考慮が必要な患者に対する歯科診療上不可欠な基本的知識を習得する。

【学修目標】

- 認知症高齢者に対する歯科医療の役割について理解する。
- 地域医療・福祉の実践から、多職種連携のあり方を学ぶ。
- 口腔疾患における和漢薬（漢方薬）を用いた薬物療法について理解する。
- 歯科診療時に全身状態を把握する習慣を身につける。
- 歯科診療上重要な救急時の初期対処方法と救命・救急の基本を理解する。
- 歯科診療上重要な頭頸部領域の主な疾患の病因・病態と診断・治療を学び、歯科疾患との関わりを理解する。
- 歯科診療中に遭遇しやすい疾患の概要を再学習し、その疾患と関連する歯科治療上の注意点を理解する。
- 口腔から発見できる全身疾患を症候別に理解する。
- 加齢・老化に伴い増加する疾患を学び、高齢者の歯科治療上の注意点を理解する。
- 歯科診療に役立つ基本的栄養管理を理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	認知症高齢者の食支援と歯科医療	認知症高齢者への食支援の実際と多職種協働の重要性について学んだうえで、歯科医療の役割について説明できる。	山田 律子
2	現場における多職種連携の可能性	NPO法人ゆうゆうの活動を通じた地域医療・福祉の実践から、多職種連携のあり方を学ぶ。	大原 裕介
3	救急医療	歯科診療上重要な救急時の初期対処方法と救命・救急の基本を理解する。 1) AEDについて説明する。 2) 意識消失した患者の対応と鑑別疾患を列挙する。 3) 呼吸困難を訴える患者の対応と鑑別疾患を列挙する。 4) 胸痛を訴える患者の対応と鑑別疾患を列挙する。	照光 真 永易 裕樹 高橋 伸彦
4	薬物療法の種類と特徴 (漢方薬) 和漢薬	漢方の特徴について概説できる。 口腔疾患における漢方薬の役割について説明できる。 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。 漢方薬の副作用と使用上の注意点を説明できる。	金 尚永
5 { 8	口腔癌の診断と治療	口腔癌の病態を理解し、診断と治療の基本およびその技術の進歩について学ぶ。 1) 口腔癌の発生要因・疫学について概説できる。 2) 口腔癌の診断に必要な検査について概説できる。 3) 口腔癌の治療のうち手術療法、化学療法および放射線治療を概説できる。 4) 口腔癌の細胞特性を理解し、分子標的薬の特徴を概説できる。 5) 口腔潜在的悪性疾患の診断と治療法について概説できる。	山下 徹郎
9	口腔乾燥症と疾患	口腔乾燥症の病態について説明できる。 口腔乾燥症に関連する疾患について説明できる。	安彦 善裕 長澤 敏行

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		口腔乾燥症の治療法について説明できる。	吉田 光希
10	地域歯科医療に関する公的制度	医療法に基づく医療計画と地域医療構想を説明できる。 地域歯科医療体制の現状と課題を説明できる。 医療従事者の現状とチーム医療を説明できる。	三浦 宏子
11	基礎疾患を有する患者への歯科治療	糖尿病の病態について説明できる。 糖尿病患者への歯科治療について説明できる。 不整脈の病態について説明できる。 不整脈患者への歯科治療について説明できる。	倉重 圭史
12 14	高齢者の補綴治療	有病高齢者における補綴歯科治療の注意点について説明できる。 有病高齢者の地域連携医療の実際について説明できる。 補綴歯科治療に関わる多職種連携について説明できる。	越野 寿 豊下 祥史
15	高齢者の摂食嚥下障害	口腔の老化と摂食嚥下障害について説明できる。 摂食嚥下障害に対する歯科的対応について説明できる。 フレイル、サルコペニアの予防と栄養について説明できる。	藤本 篤士 會田 英紀

#### 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

#### 【評価方法】

試験（100％）

- ・ 授業内容について授業終了時に実施する小テストにより評価する。

#### 【教科書】

- 「歯科のための内科学 改訂第4版」 南江堂
- 「よくわかる高齢者歯科学」 永末書店
- 「一目でわかる小児科学」 メディカル・サイエンス・インターナショナル
- 「口腔外科の疾患と治療」 永末書店
- 「NEW法医学・医事法」 南江堂
- 「歯科医学の基礎」 永末書店
- 「歯科麻酔学」第8版 医歯薬出版
- 「公衆衛生がみえる」 メディックメディア

#### 【参考書】

- 「サルコペニアの摂食嚥下障害」 医歯薬出版
- 「老化と摂食嚥下障害」 医歯薬出版
- 「認知症の人への歯科治療ガイドライン」 医歯薬出版

#### 【学修の準備】

予習は、次回の授業範囲の教科書を読んで、理解する（80分）。

復習は、教科書、プリントなどを活用し、学習を深める（80分）。

事前に指定した教科書の関連する章を読み、専門用語の意味等を予習する。

講義終了後は講義内容についてノート、教科書、配付されたプリントを復習し、理解する。

#### 【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。

（専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力）

DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適應する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。

（科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢）

DP 4. 多職種（保健、医療、福祉、介護）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる能力を身につけている。

（多職種連携能力）

**【実務経験】**

安彦 善裕（歯科医師）、永易 裕樹（歯科医師）、越野 寿（歯科医師）、  
三浦 宏子（歯科医師）、長澤 敏行（歯科医師）、會田 英紀（歯科医師）、照光 真（歯科医師）、  
高橋 伸彦（医師）、山田 律子（看護師）、豊下 祥史（歯科医師）、倉重 圭史（歯科医師）、金 尚永（薬剤師）、  
吉田 光希（歯科医師）、山下 徹郎（歯科医師）、藤本 篤士（歯科医師）

**【実務経験を活かした教育内容】**

歯科診療上重要な疾患・病態、診断・治療及び口腔と全身との関わりを理解し、全身的問題に関する考慮が必要な本科目において、歯学部においても特に医学・歯学両者が統合した実務経験に従事する教員が講義を担当している。